

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271300133		
法人名	有限会社 クオリティライフ		
事業所名	グループホームよこたの郷		
所在地	島根県仁多郡奥出雲町下横田27-1		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/jigyosho/07.h>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル		
訪問調査日	平成21年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症というハンディを負われたお年寄りさんのできにくくなったところをさりげなく支えて、その人らしさを発揮して生活できるように支援しています。日々の活動に、画一的な決まったプログラムはありません。天気の良い日は、スタッフとドライブや散歩に、また、畑の管理(苗植え・草取り・収穫)に出かけます。気分の乗らない日や雪が降って寒い日は、こたつに入ってみかんでも食べています。ここには、スタッフの笑顔に包まれた、お年寄りさんらしさが盛りだくさんの暮らしがあります。”雨の降る日は雨のように、風吹く夜には風のように、晴れた朝には晴れやかに～”がモットーです。めざすのは、夕風のようなホームです。認知症を生きるお年寄りさんが、できにくくなった点を見つけて、さりげなくケアをする特別な技術と、その人らしさを見いだす視点を併せ持つスタッフをめざして研修に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山深い里に、地域の中で当たり前暮らしの支援をしているホームがありました。毎月受診帰りに希望があれば、今までの馴染みの和尚さんに会いに連れて行くなど、作り続けていた畑をしたいという希望にそい、職員も一緒に汗を流したり、普通の暮らしが繰り広げられていました。役割のない生活ほど淋しいものはないと利用者と洗濯、掃除、料理を共にする等、その人らしく暮らし続ける為の支援や、地域に開かれたホームづくりに管理者、職員が励んでおられる姿を目にし胸が熱くなりました。今後どんなホームになるかますます楽しみです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を一部変更する形で、「地域社会の一員として自信がもてる暮らしとケア」という理念を新たに加え、事業所理念を構築し、地域活動へ積極的に参加するなどの方向づけをし、実践継続している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を目の付きやすい場所に掲示し、迷った時は理念を読み返しケアを振り返るようになっていることが、職員の聞き取りでも確認できました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商工祭りに参加するなど、積極的な取り組みをしている。日々の散歩や、地元スーパーへの買い物、畑仕事など地域との関わりは日常的にしている。	地元の方の畑を借りて利用者と野菜づくりをする中で、挨拶や言葉を交わしたり、買物、散歩等を通し日常的に地域と交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広瀬町比田地区、布部地区の家族介護教室で講師として参加したり、雲南地域の介護職員向けに認知症研修を実施したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を基に方向性を探ったり、広報誌の内容協議をしたりして、家族の方や地元自治会の方、行政機関の方からのご意見を活かして、平素の事業運営にあたっている。	会議では利用者やホームの活動状況等が報告されています。メンバーから出された意見を基に、地域に広報誌の配布、地元消防団の協力を図る等会議を活かした取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	奥出雲町の行政サービスの取り組みに関して、事業者側からの意見を、担当課の職員さんと交換するなど、連携は、常時できている。その他の行政サービスについても、特に福祉事務所職員と連携を密にしている。	事業所は運営推進会議以外にも事業所の実情やケアの取り組みを町の介護保険、福祉事務所の担当者に伝え連携を深めています。また地区の介護教室の講師や、介護職員向けに認知症研修を実施されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平素は、申し送りや職員会議で確認をして業務にあたっている。特にスピーチロックについて日常会話の中で気をつけるように申し合わせている。	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを申し送りや職員会議で確認し合い、特にスピーチロックについては職員間で日頃から細心の注意がはらわれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年11月に奥出雲町内小規模事業所合同で高齢者虐待に関する研修会に参加し、その後事業所内で、虐待に関する資料をもとに、申し送りの時間を利用して内部研修を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族関係から考えると、今後利用を検討しなければならないケースもあるので、福祉事務所の担当者と相談をして準備をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	平成20年3月以降入居となった4名の新規利用者に対して、重要事項を基に丁寧に説明を行い、契約締結を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	階段踊り場に、国保連の介護サービスへの苦情受付ポスターを常時掲示、グループホーム出入口には、苦情相談受付箱を設置している。	面会簿ではなく、自由に書き込んでいただけるように個人面会帳の作成や、苦情、意見箱も設置されています。推進会議で家族から「利用者が落ち着いてこられた」との声を、ケアの励みに活かし一層取り組まれることを期待します。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議、日々の活動の中で随時聴いて、細かな改善に努めている。ペランダのスロープ老朽化に対応し、手摺付き階段にするなど。	目頃から管理者は職員の意見を聞くようになり、スロープの改修、オシメの見直し、男性トイレの設置等について、速やかに対応し予算の伴う物は代表者に持ち上げています。職員聞き取りでも意見が言い易いことが確認できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げに伴うキャリアパスの作成検討など条件整備を継続している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度上半期は、外部研修会参加とOJTの取り組みであった。職員の知識や利用者への対応レベルの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年10月開催の雲南地域グループホーム部会に5名の職員が参加し、研修と併せて他のグループホーム職員や小規模多機能施設の職員と交流もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から3ヶ月程度は、住み心地を中心に細かい問いかけをしながら、本人の想いを感じてのケアの方法を模索し、個人記録用紙を微妙に変化させ、職員で共有して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり家庭訪問を行い、家族から本人の生活歴などを聴取しながら、ご家族の方自身の心境や入居にあたっての心配事などを察知するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネを通して、入居の打診があるケースがほとんどであり、他のサービスの検討がほぼ終わっている感があるが、インフォーマルサービスを中心に、可能性は検討材料に入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員研修などで、利用者が生活を営んでいくうえで、役割のない生活ほど淋しいものはないという共通理解をしている。日々の食事作り、掃除、洗濯など生活場面で、利用者とは職員が共に行動するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、家庭を訪問させていただいた際などに、随時本人の状況を伝え、必要に応じて協議し、ケアのヒントを一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の畑を継続耕作させて頂いたり、地元のお寺や自宅に思い出のある利用者の要望に応え、定期的(月に1回程度)に自宅やお寺に行ったりするようにしている。	自宅の畑を続け耕作したい方の支援や、檀家の寺や家に帰ってみたいという方には、ドライブをかね出かけ、馴染みの和尚さんとも関係が途切れないよう支援や、自宅で奥さん手作りのおはぎを毎月食べる楽しみ等の支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活ぶりを観察しながら、人間関係を調整している。食事の際に会話が弾むようにしたり、外出時のグループ編成に配慮したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今春、町内の病院に入院された前利用者の家族とは度々連絡をとり、特養入居に向けて支援を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今後の自分の居場所に関して、揺れ動いている利用者に対して、随時対話をし、方向性を確認している。意思疎通が困難な利用者については、本人の想いを汲み取るようにしている。	利用者がその人らしく暮らし続けていくための思いの把握に努め、在宅復帰の本人希望に添い家族や関係者と話しあいがされています。意思疎通が困難な方は日々の行動や表情、家族、関係者から情報を得て汲み取られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から直接聴いたり、ご家族の面会の折に昔の生活ぶりを尋ねたりしている。利用者の人となりを感じて、ケアにあたるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況は日々変化するし、場合によっては日内変動もある。それらを踏まえて、ケアの微調整をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況変化が起こった場合、ケアの方法を本人と職員で検討し、場合によっては家族と協議する形での介護計画作成を行っている。	日頃から個人記録に本人の言葉や思いを書きとめ、本人、家族、職員の意見を反映した介護計画が作成されています。見直しは期間ごとや状態変化に応じられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	始業時に、個人記録や業務日誌に必ず目を通すように徹底しているので、情報を共有するとともに、利用者の変化に即した実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が地元地域の方に会いたいなどの要望があったときに、階下のデイサービスに行き、歓談してもらうような対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅復帰を検討している利用者について自宅周辺の人的資源を調整するなど、在宅生活実現に向けて安全にできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に永生クリニック・コスモ病院・加藤医院であるが、利用者が、以前から通院していた馴染みのDrに、継続的にかかれるよう支援を続けている。	受診は本人及び家族の希望を大切に、入所前より通院していた馴染みの主治医に継続受診の支援がされています。受診結果は家族、職員間で共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元連携病院の永生クリニックの看護師、コスモ病院の訪問看護師に相談をしながら、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症のため、入院による環境の変化で混乱される場合が多い。そのため、治療の必要性をDrと相談しながら、早期の退院に向けて協力体制をとっている。今年度も夜間不穏行動に対応してホームに外泊という形で協力体制を組んだ実績がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度や年齢の高い利用者については、既に特養申請を済ませておられるケースが多い。重要な案件なので、他のケースについても話し合いを深めていかねばならない。	重度化や終末期のケアに対しては、グループホームとしての特性や限界もあり、専門医での看取りを基本としながら、本人、家族の希望があれば話し合い検討したいという方針が共有されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時掲示してあるマニュアルに沿って行動ができるように、申し送り時などに確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施の避難訓練等により、内部的には災害に備えている。今年度予定している訓練前に地元消防団への内部状況説明を行う。	消防署の協力を得て年2回災害訓練が利用者をまじえ実施されています。今年から地元消防団の協力体制を築き、スプリンクラーの取り付けも計画されています。	災害はいつ起こるかわかりません。いざという時の為に非常食等の備えを検討されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の何気ない会話から、利用者の情報が漏れないように、申し送りなどで徹底を図っている。	職員は利用者は人生の先輩であると敬い、誇りを損ねない言葉かけや食事等の対応がされていましたが、利用者が聞こえにくいということもあってかトイレ誘導の声が気になる時もありました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳が遠くて意思疎通が困難な利用者に対して、身振り手振り時には筆談で理解をいただくようにしたり、お茶の熱い冷たいなどの希望を都度伺うようにしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がケア全般に、さりげない支援を心がけている。散歩も引率するという形ではなく、遠くから見守るという支援を多用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や通院の際の服装には特に気を遣って、おしゃれをするように心がけている。また地元の美容院に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて、料理の下ごしらえや盛り付け、食器洗いなどに積極的に関わってもらおうようにしている。献立も日常会話の中で利用者と共に考えている。	利用者の希望を聞き栄養士と食事担当が献立を決め買物、下準備、盛り付け、食器洗い等利用者と職員が楽しそうにされていました。利用者をつくった梅酒や散歩で拾った紅葉が膳に添えられ、職員と同じ食卓で談笑しながら撮られていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な食事内容としており、栄養士を配置して栄養状態を管理している。また、夏場は特に水分補給について番茶ゼリー等で、体調維持管理に努めた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っており、義歯管理も毎夜薬剤につけ置きして清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の傾向を掴むため、個人記録に排泄時刻を記入するようにしている。なるべく布パンツの着用を継続して頂けるよう、排泄誘導のタイミングを工夫している。	排泄記録や一人ひとりの様子を察知しながら、可能なかぎりトイレで気持ちよく排泄ができるように、夜間もトイレ誘導を行い排泄自立にむけた支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立が多く、ひどい便秘症状の方はおられないが、排便の確認を一覧表にしておき、状況を確認しながら、運動不足になりがちな冬場には、ラジオ体操をするなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね1日おきには入浴して頂けるようにしている。ほぼ毎日入浴される方もおられる。体調に配慮しながら、午前、午後、夜間と本人の希望に沿う形で支援している。	職員の都合で決めてしまわず、午前、午後、夜間と本人の希望にそった形で入浴を楽しむ支援がされています。概ね1日おきであるが毎日される方もおり、夏場は随時入浴支援が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下の2箇所ソファを置き、のんびりうたた寝をされる姿がよく見られる。又、寒くなると和室にこたつをしいているので、自然に丸くなって入られることもしばしばある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬状態は、処方箋コピーで常時確認している。薬の用法や副作用も理解しており、症状の変化についてDrに報告し、微調整もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中では、食事の下準備や洗濯たたみなどを中心に、おしゃべりしながら楽しんで行ってもらっている。又、散歩やドライブ、畑仕事など随時活動をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近場のドライブは頻繁に行っている。戸外に出かけることは、ストレスの発散にもつながるので、いつも気くばりしている。	誕生日は個々の希望にそい温泉や演芸場に出かけたり、車を利用しての花見外出、栗拾い等散歩、買物、ドライブは日常的に頻繁におこないストレスの発散、五感刺激が得られるように努めておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方については、外出や買い物の際普通に出納して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝の時間以外は、ごく普通に連絡ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ところどころにソファや観葉植物、季節の花を置いて、ゆったり過ごせるようにしている。利用者がソファで談笑したり、昼寝をしたりされることがいつもみられる。	男性を交えた利用者や職員で日々掃除が行われていて、清潔感の溢れた広々としたホームが印象的でした。食事を作る音や匂いは家庭を感じさせ、職員をまじえ利用者の昔話に花が咲き、居心地のよい共有空間でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ2箇所と和室が1箇所あり、それぞれの空間で、自分のペースで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いて頂くようにしている。自宅から人形やこたつ、椅子などが置かれ、それぞれの個性が感じられる。	居室は好みに合わせ畳敷、コタツ、椅子等が置かれていました。あまり物を置きたくない利用者等個々にあわせ居心地よく過ごせる工夫がされていました。加湿器は各部屋にあり健康にも配慮がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示を図柄にしたり、風呂場入り口に暖簾をかけたたりしている。今のところ、場所の見当識は比較的保たれており、混乱はあまり無い。		